

会報 ふれあい

第228号

発行 せきがやふれあいの会

平成31年1月1日

※電話相談・簡単修理は、月曜～土曜(午前)自治会館にお電話下さい(Tel.784-4447)。主に高齢者向けです。
※ふれあいの会の催しに、車椅子で参加される方のお手伝いをいたします。事前に自治会館にお電話下さい。

「ちょっとサポート 今月の依頼」

「物置の解体」について

使わなくなった物置を解体しました。解体の手順は以下の通りです。

1. 物置の中身の取り出しと処分

使用しなくなったものは通常のゴミまたは大型ごみとして排出します。

2. 物置の基礎の確認

小さな物置の場合は、通常はコンクリートブロックが下に置かれているだけですが、しっかりとした基礎に物置が固定されている場合は解体が困難で専門業者への依頼が必要です。

3. 物置本体の解体

今回はスチール製の比較的小さな物置で、それぞれの面がボルトとナットで固定されているタイプのものでした。溶接などの特別な機械を使わないと取れないという箇所もなかったので、ボルトを外して屋根の部分の取り外しから始めて、徐々に下の方を分解していきました。幸いボルト・ナットがあまり錆びていなかつたので、比較的容易に作業出来ました。安全のため二人で作業しました。

4. 物置の基礎の撤去

今回は一部しっかりと基礎が造られており、その部分は撤去困難でしたのでそのままとしました。

5. 解体作業で出た廃材の処分

スチールなどの金属は、業者が無料で引き取ってくれました。(坂口)

紅花会

第32回紅花会(認知症の人と家族の会)の集い

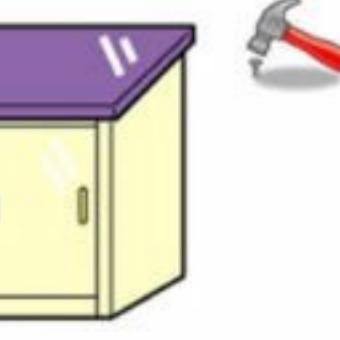
介護保険は利用者負担1割で、それに見合った給付を保証するという約束でスタートしたにもかかわらず、2015年の改定で一部2割負担、2018年8月からは一部3割負担導入され、更に3年後の改定では「利用者負担一律2割とする」という財務省の考え方が示されました。来年には消費税も10%になりますし、介護認定や利用条件も、認知症の人には厳しくなっていますので、家族は経済的にも精神的にも苦しくなりますね。

薬やケア、リハビリ等の総合的な効果で認知症の進行スピードが遅くなってきて、日常生活に支障がないまま生涯を終える人も増えてきたようですが、介護する人が孤独だとうつや認知症になるリスクが増えるので、集いにいらっしゃいませんか?何かおかしいなと感じる、初期症状の頃一番対応が難しく、家族はイライラや怒りが起きて苦しい時ですから

日時：平成31年1月29日(火)午後1時30分～午後3時30分

場所：Mさん宅(暖かく居心地の良いお家です)

会費：無料 初めての方事前にお電話下さい。中山



第80回「ふれあいティータイム」

映画上映会「ローマの休日」

リクエスト第20弾

1953年アメリカ映画、ウイリアム・ワライー監督、118分
1953年のアカデミー賞「最優秀主演女優賞」

「最優秀衣装とデザイン賞」、「最優秀原案賞」受賞。

今回は、オードリー・ヘップバーンの出世作「ローマの休日」を上映します。無名のオードリーを大女優にした映画ですが、脚本家のダルトン・トランボがこの物語を書き上げたのは1940年代半ば頃で、当時の映画製作会社リバティ社がこの脚本の映画化にフランク・キャプラを監督にして製作に入ることになりました。キャプラは当初エリザベス・テラーとケーリー・グラントを予定したが製作費の問題で折り合えず、その後パラマウント社がこの映画を作り上げました。もし監督がキャプランで俳優がエリザベス・テラーとケーリー・グラントだったら?と考えると面白いですね。数々の名シーンを生み出したこの作品、貴方のお気に入りはどのシーンですか?

日 時：1月23日(水)午後1時半～

場 所：自治会館1階 会議室

会 費：無料(申込み不要、当日自由

にお越しください)

問合せ：野呂



ちびっ子の皆さん、あけましておめでとうございます。

今年も元気いっぱい楽しい1年にしましょうね!!

0歳児の赤ちゃんから未就園児のお子さんまでどなたでも自由にご参加いただいております。お子達はおもちゃで遊んだり、紙芝居を見たり、ママ達は情報交換をしながら和気あいあいと楽しんでおります。初めての方も大歓迎です。ぜひ遊びにいらしてください。(鈴木)

日時：1月25日(金)10:00～11:30 場所：自治会館1F(Tel.784-4447)

居酒屋

居酒屋「せきがや」(第5回)のご案内

過去の会はいずれも参加者約35人の盛会でした。現役の方も含めた自治会の方々が気楽に歓談できる場の提供を目指したもので、会場の模様は出前にぎり、オードブルプレートなどを囲むハイキング風です。自治会内の知人作りに、さらには親交を深めるのにご活用下さい。知人の多いことは健康づくりに、またいざという時に非常に有意義でしょう。

日時：1月26日(土)午後6時(18:00)～(約2時間)

場所：関ヶ谷自治会館 1F 会議室

会費：1500円(当日会場入り口にて集金)

申込み先：*メールアドレス *紙面なら「関ヶ谷自治会館入口のポスト」

記入項目 居酒屋「せきがや」に参加します。 氏名 ブロック番号 電話番号

申込み締切 1月16日(水) お問合せ



居酒屋「せきがや」 参加します。

申込日 ____月 ____日

氏名 _____ ブロック _____ 電話番号 _____

くすり食い

緑道さんぽ



毎年初春、恒例の「ジビエの会」を開催しております。「ジビエ料理」につきましては、材料が家畜の肉でなく、私の古くからの友人を初め7人のハンターの仲間が、仕留めた野生の猪や鹿(主に蝦夷鹿)やときには熊肉を使った豪快で野趣豊かな肉料理です。私は材料の仕込みや煙製つくりなどを担当しております。

◇江戸時代には、狸、狐、兔、鹿、猪等の「四つ足類」は殺生禁止でしたが、動物の肉は、体が温まり、病の予防や健康維持によいので、「くすり喰い」と称して、庶民は秘かに食べていました。現在でも、「ジビエ」のこと

を俳句には、「薬喰い」と言う言葉が残り「冬の季語」になっています。

「客僧の狸寝入りくすり喰ひ」 謝謝蕉村

「地酒下げ割込む杣の薬喰ひ」 まさひろ

開口

頂いた情報が大変面白く「薬食い」とそれにまつわる俳句を調べてみる事にしました。

古代、狩猟は山間地に暮らす人々の生活の糧(かて)でしたが、仏教伝来によって獣肉食への罪悪視が広まっていきました。しかし、人間が生きていくためには殺生をしその命を食べていかざるを得ない。その矛盾の解決として諫訪大社上社は、「鹿食免」(かじきめん)という免罪符と「鹿食箸」(かじきばし)という箸を発行しました。この免罪符があれば狩猟ができ、箸を使えば肉食が許されるというのです。現在も1000円の初穂料で頂けます。

【くすり喰人にかかるな鹿ヶ谷】 蕉村 (獣肉を食べていることは、決して人に語ってはいけない、鹿ヶ谷の謀議と同様に。)

【打ちかけの妻もこもれり薬喰】 蕉村 (正装をした妻もこっそり隠れて薬喰をしている。見目を飾っても旨いものには目がない。)

彦根藩井伊家は江戸時代に唯一、牛の屠殺が許された藩であり、その用途の表向きは牛皮の調達でしたが、大量の肉を廃棄するのはもったいないとばかりに、滋養強壮のための薬という扱いで牛肉の味噌漬けを製造、毎年の冬に將軍家や他藩に贈るのが恒例となりました。「反本丸(へんほんがん)」という名の薬として売られていた牛肉の味噌漬けは、大石内蔵助から掘部弥兵衛に贈られたという手紙が残っているという事です。

【行く人を皿でまねぐや薬食】 一茶 【薬喰隣の亭主著持参】 蕉村

江戸で獣肉を売る店を「ももんじ屋」(百獸屋)といい、ただ看板には「百獸」とは書けないので殆どの店は「山ぐら」としていました。また猪は「牡丹」、鹿を「紅葉」、馬は「桜」と隠語で呼んでいました。

猪肉を牡丹というのは、猪肉は脂身の白と赤身がはっきりしていてボタンの花のように飾って盛り付けたところからしているとか。鹿に紅葉という隠語を付けたのは、花札の紅葉(10月札)に鹿がでてくるため、もしくは、「奥山にも

みじ踏みわけ鳴く鹿の…」と和歌から来たとも言われています。

桜は、牡丹や紅葉の方が先に決められており植物で続いているので、何にしようかと考えた末に、殺した直後の馬肉の色が桜色だったところからきたとか(?)。鶴が柏(かしわ)といわれる理由は、日本で食用にされていた鶴の色が柏の葉っぱの色に似ていたところから付いたといわれています。かしわという言い方は中部地区(愛知、岐阜)以西に多いようです。

(文責:野々山)



ももんじや
両国「ももんじや」

ももんじや

ももんじや